

# 小学5年3組 体育科学習指導案

指導者 小 草 康 弘

## 1. 単元名 みんなの力でつなげよう！ ～ソフトバレーボールチームの挑戦～

### 2. 授業の構想

- (1) 今日のバトンパスは今までで一番よかったと思いました。おたがいにバトンパスのコツについて声をかけながらやりました。バトンをわたすときも「はい！」と言ってわたしました。おかげでタイムが早くなってよかったです。こういうチームワークは他のことでも生かしていきたいです。(M・I)
- これはリレーの学習のふりかえりである。チームの中でタイムを縮めるために、自分たちで見つけたコツをもとに、バトンのもらい方、わたし方について声をかけ合ったり、何度も練習をくりかえしたりする姿が見られた。それは、アドバイスをし合い、励まし合うことで、チームの記録も気持ちも高まっていく心地よさを味わうことができたからである。高学年の発達段階において、チームワークを意識させることは、自分では気づけなかった個人の課題や、チーム全体の課題がわかり、その課題を解決しようと力を合わせて向かっていくことにつながると考えている。
- また、子どもたちはこれまでの学習の中で、動ける体を身につけていくことにより、「コツを意識してがんばればできそうだ」という達成感を味わってきている。体の動かし方を体が理解したことによって、自分でも違和感を覚えるほどの伸びを実感できた子もいた。ここで感じた達成感から、他の運動でもできるようになりたいという気もちをもって取り組む姿も見られた。これまでの失敗体験から運動に苦手意識をもつ子も、目標記録をクリアしながら、「できるかもしれない」という気もちもちはじめていくように感じる。
- 本単元では、1チームの人数を少なくし、チーム内での声かけやプレーの一つひとつを大切にしていきたい。ソフトバレーボールの学習の中で、仲間とのかかわりの場面を設定し、コツを共有化し、自分やチームの課題を見つけ、ボールと自分の位置関係やボールの上げ方など動ける体を身につけることをねらいとして本単元を構想する。
- (2) ソフトバレーボールは、互いのチームがネットをはさんで分かれ、相手コートにボールを落としたり、相手がボールをはじき出したりすることで得点し、その点を競い合って楽しむ運動である。攻防分離型の運動であるため、バスケットボールなどの攻防一体型の運動よりも自分のチームの動きを見るゆとりが生まれ、チームや仲間を客観的に見るのが可能となる。たとえそれが試合中であっても、1プレーごとにゲームが止まるため、今、行われたプレーについても子ども同士アドバイスがしやすい。これにより、チームの仲間一人ひとりに目を向けることができ、個人やチームの課題が整理しやすい。互いの動きを見合い、声をかけ合いながら技能を高めていくのに適している運動だといえる。
- また、ボールが自陣に落ちたり、自分たちがミスをしたりしなければ得点にならず次につながる。そこには、懸命にボールを追う姿、動きのアドバイスをする仲間からの声かけなど、チームワークが現れる。ボールに触れることができるのは一人だけだが、周りの運動共感が次の動きを生み、ボールをつなげていこうとするチーム意識が育まれる。
- 運動の得意でない子にとっても軽くてやわらかいソフトバレーボールを使用するため、恐怖心がなく最も大切なつなぎのプレーであるパスを意欲的に行うことができる。また、「ボールを上にあげる」という基本的な動きが身につけば、ゲームをしながら、ラリーが続いたり、相手の攻撃したボールをとったりすることにも大きな喜びを感じることができる。
- (3) 本単元では、この単元の特性と、子どもたちの実態を生かし、チームの勝利に向かって「ボールをつなげる個人技能の向上」「自分にあつためあてをもつことができる、個やチームの課題をはっきりさせるための効果的な仲間とのかかわり」の2つの観点から取り組んでいく。その中で、5年3組の

みんなでみつけたソフトバレーボールのコツを具体的な動きとしてまとめた「レベルアップカード」を作成する。そのカードをもとに、自分の課題を書き入れながら、自分やチームの友だちの課題をとらえ、アドバイスをし合える場を設定していく。友達の動きを見たり、レベルアップカードを用いてめあてを明らかにしたりして取り組むことで、動きについて自分の課題に気づき、よりよい動きを身につけられるようにしていきたい。

第1次は、簡単なルールでのゲームに挑戦し、楽しさや難しさを感じながら、「楽しさ」「勝利」というめあてに向かい、コツを見つけていく。ソフトバレーボールにおいて基本の動きとなるパスについて、ボールを待つ場所、立ち方、手の形や使い方などのコツを見つけていきたい。そのために、子どものつぶやきや体育ノート、ふりかえりから、コツにつながるものを取り上げ、みんなでそのよさを理解したり、実感したりすることができるようにしながら「レベルアップカード」を作成していく。

第2次は、簡単なルールをもとにゲームをし、技能を高めながら個とチームの課題を知る。練習やゲームの中で、仲間とのかかわりの場面を設定し、声をかけ合うことを意識できるようにしていく。子ども達が、練習時に、互いの「レベルアップカード」を見ながら、声をかけ合い、試合中には、アドバイザー（チームの中に1人か2人、外から見人「アドバイザー」を設定する）が、唯一全体を見ることができる存在であることや、アドバイザーの試合中の一言がチームに力を与えたり、チームを勝利に導いたりすることを意識しながら声をかける姿を期待したい。そのためにも、子どもたちが、ボールの動きを何気なく追うのではなく、見る側のポイントを明確に意識できるよう、「レベルアップカード」に注目することや、プレーヤーやアドバイザーの具体的な動きや声かけのよさを伝えながら、そのよさを価値づけていく。

第3次は、これまで高めた個人やチームの力と、理解し合ったチームの特長を生かしながら相手に勝つための作戦を考えていく。子ども達は作戦を考える中で、ボールをつなぐ意識をもちながら、攻め方や守り方の工夫もし始めるだろう。ゲームをして勝敗がつく中で、何がよかったのか、どこをがんばればよかったのか互いに意見を出し合い、作戦、個人の動きやチームのかかわりなど、ふりかえる視点を明確にもたせながら、チームや個人の課題に目を向けられるようにしていきたい。

第4次は、これまでの学習を生かしながらゲームを楽しみ、大会を通じて自分のがんばりや友だちのよさ、チームの伸びについてふりかえりながら、力を合わせることで感じた喜びを大切にしたい。

### 3. 活動展開計画（全10時間 本時6／10）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	ソフトバレーボールに挑戦し、ボールをつなげるコツを見つける	1	・簡単なルール、マナーと安全について約束事を知り、試しのゲームを行う。
		2	・トスやレシーブの基本的な動きのコツを見つけ、「5-3レベルアップカード」を作成する。
		3	・見つけたコツを意識しながら、練習をする。 ・簡単なルールをもとにゲームをする。
2	見つけたコツをもとにアドバイスをし合い、技能を高めながら個とチームの課題を知る	4	・見つけたコツを意識し、レシーブ、トスの技能を高める。
		5 ⑥	・簡単なルールをもとにゲームをする。 ・練習時間を確保し、チームごとに練習をする。
3	自分や相手のチームの特長を考えながら作戦を立て、それをもとにした練習やゲームをする	7	・個やチームの課題にあった練習をし、レシーブ、トスの技能を高める。
		8 9	・練習時間を確保し、チームごとに練習をする。 ・チームの特長を生かした作戦を考えながらゲームをする。
4	これまでの学習を生かして5年カップをする	10	・学んできたことを生かしてゲームを楽しみ、自分のがんばりや友だちのよさ、チームの伸びについてふりかえる。

#### 4. 本時の学習

##### (1)ねらい

見つけたコツをもとにアドバイスし合いながら、自分や仲間の課題を知り、トスやレシーブでボールをつなぐことができる。

##### (2)展開

学習場面と子どもの取り組み	教師のはたらきかけと願い
<p>1. 場の準備を行い、チームごとに練習をする。</p> <p>2. 本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で見つけた課題をもとに、早く集まったチームから練習を始めることで練習量の確保とともに、チームとして協力する姿勢をもてるようにする。</li> <li>本時の対戦相手とコートの確認ができるように対戦表を貼っておく。</li> </ul>
<p><b>レベルアップカードをいかして、見つけたコツをゲームでやってみよう！</b></p>	
<p>3. レベルアップ練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールの下に行くぞ。</li> <li>ひざを曲げて、ボールがきてもいいように準備をするぞ。</li> <li>手で三角をつくって上手にボールをあげるぞ。</li> <li>レシーブのときにひじがまがらないようにするぞ。</li> </ul> <p>4. ゲームをする。</p> <p>&lt;ゲーム1&gt; ～5分～ 赤－青 黄－緑 黒（審判）</p> <p>《反省・練習》 ～5分～</p> <p>&lt;ゲーム2&gt; ～5分～ 黒－赤 青－黄 緑（審判）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに出た子どもたちの動きから具体的な動きを紹介したりチームとしてのよい動きを取り上げたりしてポイントを示す。</li> <li>これまでの記録を掲示し、新記録に向かう姿勢をもてるようにする。</li> <li>互いのレベルアップカードを見合い、仲間の課題を知り、アドバイスをし合うことができるようにする。</li> <li>自分や仲間の課題に目をむけることができるよう声をかける。</li> <li>チーム内の考えを見てまわりながら、よさをもとめたり、困っているチームの相談にのったりする。</li> <li>反省後のゲームの声かけの材料となるよう、話し合いの内容を確認し各チームの課題を知る。</li> <li>よい動きをアドバイスしている姿を認め、何がよいのか具体的に伝えていく。</li> <li>反省が早く終わったチームから練習をしてもよいこととする。</li> <li>反省や練習が活かされている場をとらえ、子ども同士の声かけや、動きのよさを認めてまわる。</li> </ul>
<p>5. 本時の学習をチーム、個人でふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボールがうまくつながったぞ。</li> <li>アドバイスされて課題が見つかったぞ。</li> <li>今日の課題がクリアできたぞ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的によかったところやよくしていきたいところについてレベルアップカードを使いながら話し合い、次のゲームへの課題がもてるようにする。</li> <li>全体でふりかえりをし、チームの仲間を認める声かけや、アドバイス、うまくつなげたチームプレイなど、チームや個人の中でよかったものを紹介する。</li> </ul>